新町（しんまち）遺跡（第２次調査）現地説明会資料

令和３年９月４日（土）
国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
㈱吉田建設・㈱帆苅組・小柳建設㈱特定共同企業体

調査の概要

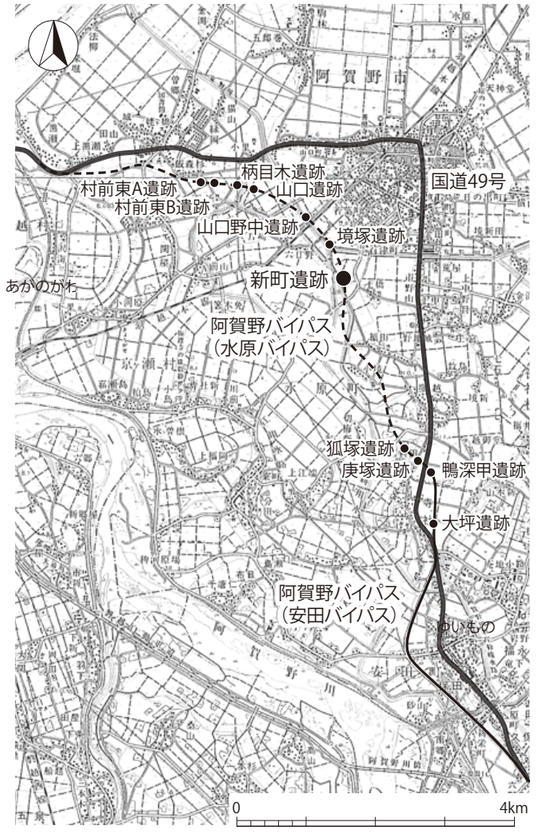
本遺跡調査は、阿賀野バイパス道路事業建設工事に伴い実施しているものです。新町遺跡は新潟県阿賀野市大字百津（ももづ）字新町に所在する室町時代の遺跡です。遺跡は、阿賀野川（あがのがわ）右岸の標高７ｍの自然堤防上に立地します。

新町遺跡周辺には中世の多数の遺跡が存在します。大型井戸が発見された境塚（さかいざわ）遺跡や、集落跡である山口野中（やまぐちのなか）遺跡、山口遺跡、村前東（むらまえひがし）Ａ遺跡、狐塚遺跡等が調査されています。このように新町遺跡周辺では中世に幾つもの集落が存在し、人々が生活していたことがうかがえます。

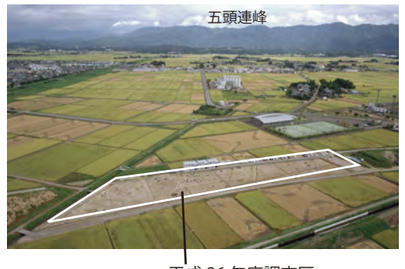
新町遺跡は平成 26 年にバイパス本線部分の調査が行われ、中世の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）・溝・井戸・土坑（どこう）等が発見されています。特に井戸は 97 基あり、素掘（すぼ）りの他、井戸側（いどがわ）や木製の容器である結物（ゆいもの）が設置された井戸等、様々な種類の井戸が発見されました。中でも井戸側が設置されている大型の井戸（SE114）は一部が調査区外にあり、全容が不明でした。

今回は前回調査区の東側を調査しました。井戸７基や溝 10 条が発見されました。井戸は殆どが素掘りでした。さらに前回調査できなかった SE114 の全容が判明する予定です。また、曲物（まげもの）が埋設されている SE620 が発見されました。

遺跡は今回の調査区から更に東に広がることが明らかになり、井戸が多数存在する貴重な遺跡であることが改めて判明しました。



第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置
（国土地理院地形図「新潟」「新津」1:50,000 原図 平成 14 年発行）



平成 26 年度調査区

調査区全景（南から）

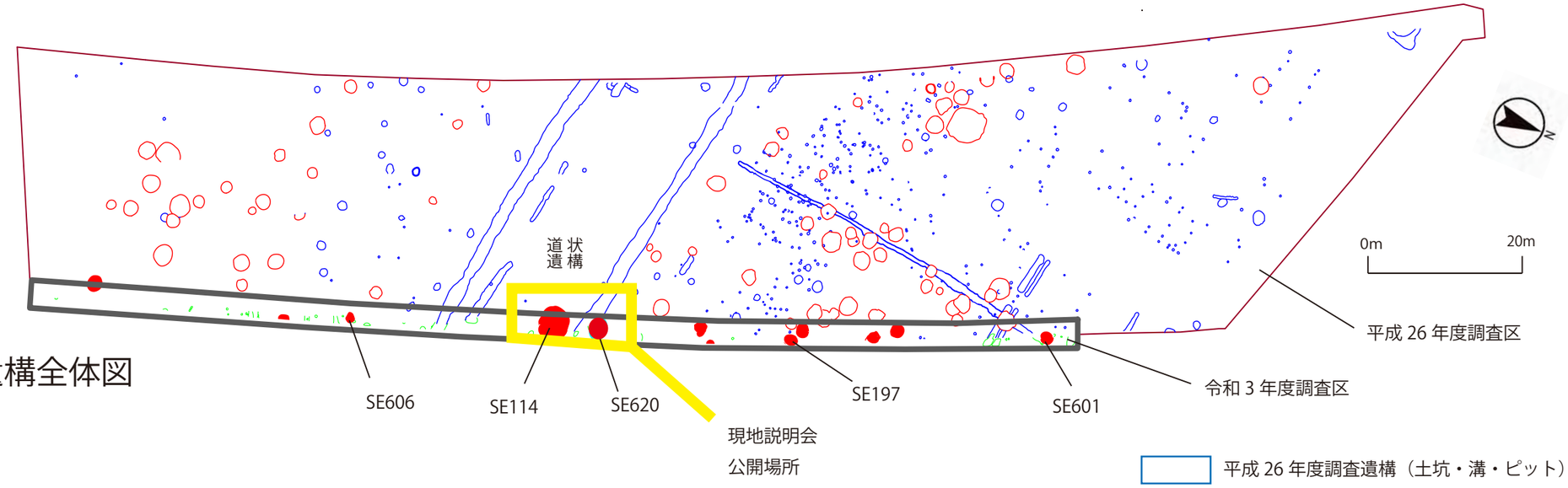
SE219（井戸）結物設置状況（平成 26 年度調査）

SE65（井戸）井戸側設置状況（平成 26 年度調査）

SE114（井戸）井戸側検出状況

SE601（井戸）全景

新町遺跡遺構全体図



平成 26 年度調査遺構（土坑・溝・ピット）

平成 26 年度調査遺構（井戸）

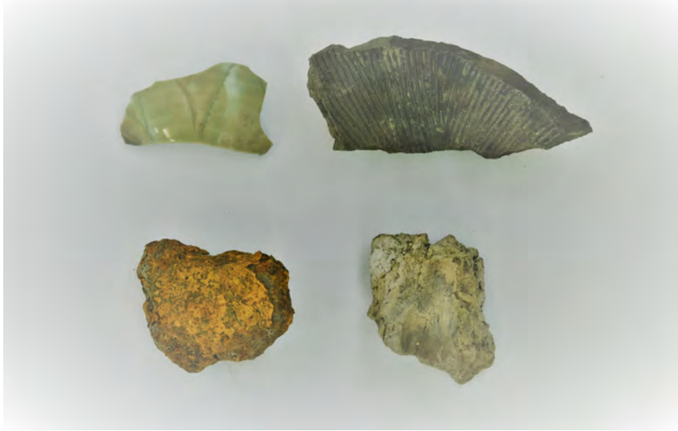
令和 3 年度調査遺構（井戸）

SE114(井戸）井戸側検出状況　南西から

SE606（井戸）全景　南西から

SE620（井戸）　曲物　南西から

SE197 全景（井戸）　南西から



出土遺物（左上青磁・右上珠洲焼・左下鉄滓・右下羽口）

新町遺跡は 15 世紀後半～ 16 世紀前半の遺物が出土しています。遺物は輸入陶磁器（ゆにゅうとうじき）である青磁や石川県珠洲（すず）で生産された珠洲焼、鍛冶関連遺物（かじかんれんいぶつ）である羽口（はぐち）や鉄滓（てっさい）が出土しました。鍛冶関連施設は発見されていませんが、近隣に鍛冶関連の施設が存在した可能性があります。

まとめ

室町時代の 15 世紀後半～ 16 世紀初頭に存在した本遺跡は多数の物や人が行き交ったことが遺構（いこう）・遺物（いぶつ）からうかがえました。

今回の調査により多数の井戸、道状遺構（みちじょういこう）が発見されました。遺構の特殊性や青磁・白磁（はくじ）等の輸入陶磁器の出土、さらに前回調査で出土した茶道具などの遺物から本遺跡は一般的な集落とは異なると思われます。